

KOGEI Art Fair Kanazawa 2023に 過去最多40ギャラリーから約200名の出展が決定！ 国立工芸館所有の茶道具を使用した茶会など、 15の特別プログラムもあわせて開催。

12月1日(金)-3日(日)に開催する、国内唯一の工芸に特化したアートフェア「KOGEI Art Fair Kanazawa 2023」。第7回目の開催となる今年は、過去最大数となる国内外40ギャラリーから、アーティスト約200名の出展が決定しました。さらに、今年初開催となる国立工芸館所有の茶道具を使用したプレミアム茶会、アーティストの工房訪問、そして「KOGEIのいま」に触れるトークイベントなど、15の特別プログラムを開催します。アートと工芸のジャンルを超えて新たな表現を求めるアーティストが増えるなか、世界的にもますます注目を集める「KOGEI」。暮らしにアートと工芸が息づくまち金沢から、「いま手に入れるべき工芸」と、その新たな楽しみ方を提案します。 <https://kogei-artfair.jp/>



Lu Jyun-Han 《Mountain Building Project 01》 2022

KOGEI Art Fair Kanazawa 2023 開催概要

日時：12月1日(金) 13:00～19:00 (最終入場18:30) ファーストビュー (招待者限定)
12月2日(土) 11:00～19:00 (最終入場18:30) 一般公開
12月3日(日) 11:00～18:00 (最終入場17:30) 一般公開
会場：ハイアットセントリック 金沢 2階、5階、6階(石川県金沢市広岡1丁目5-2)
入場：2,000円(2日間通し券)
販売：<https://artsticker.app/events/12971>

メディアの皆様へ：12月1日(金) 12:00～13:00に内覧会を行います。
ぜひご参加お願いいたします(別途ご案内状を送付いたします)

■ 出展アーティスト

初出展の14ギャラリーを含む、国内外40ギャラリー（日本32、台湾7、韓国1）から、アーティスト209名が出品します。

- 【Art+Craft Gallery 蚕室 | 東京】 五月女 晴佳 / 坂田 あづみ / 藤田 えみ / 網 なおき / 中村 眞弥子 / 藤原 彩葉
【art gallery Komori | 愛知】 江口 葉葉子 / 竹内 紘三 / 亀江 道子 / 辻めぐみ / アンドシュ プロードル
【Art Shop 月映 | 石川】 山村 慎哉 / 横山 翔平 / 隗 楠 / 上田 剛 / 豊海 健太 / 鶴飼 康平 / 平戸 香菜
【芦屋画廊kyoto | 京都】 ハルトリーニ・レオナルド / 沢田一葉 / 言上真舟 / 高橋誠 / 藤野征一郎
【Asir Art Museum | 台湾】 曾英棟 / 鍾立愷
【ASTAR GALLERY | 台湾】 邱国峯 / 郑崇孝 / 郑宇宏 / 盧俊翰 / 崔惠宇
【atelier&gallery creava | 石川】 花山 ちひろ / 曾谷 朱音 / 荒谷 翔 / 織田 隼生 / 酒井 智也 / 百瀬 玲亜 / やまわき てるり / 荒谷 翔
【Blue Dragon Art Company | 台湾】 蔣友柏 / 孟舒 / 林戎依
【カフェ&ギャラリーミュゼ | 石川】 神谷 麻穂 / 関 ななみ / 長友 由紀 / 清水 早希 / 池田 晃将 / 奥島 圭二
【CAPITAL ART CENTER | 台湾】 李霽洵 / 李屏宜 / 陳廷曜
【COMBINE/BAMI gallery | 京都】 公庄 直樹 / 小橋 順明 / 岡部 賢亮 / 佐野 曉
【dining gallery 銀座の金沢 | 東京】 富永 一真 / 七月の鯨 / 木下 富雄 / 箕 智景 / 魚津 悠 / 今西 泰起 / 金丸 絵美 / 酒尾 孝基 / 野口 健
【縁煌 | 石川】 上端 伸也 / 白井 渚 / 猪野屋 牧子 / 吉村 茉莉 / 中島 ゆり恵 / 澤谷 由子 / 堀 貴春 / 早助千晴 / 井上 雅子 / 西野 美香 / 杉原 倫子 / 河田 里美 / 菅野 有紀子 / 水元 かよこ
【galleria PONTE ガレリアポンテ | 石川】 久野 彩子 / 久米 圭子 / 水代 達史 / 坂井 直樹 / 伊能 一三 / 村本 真吾
【GALLERY CLEF | 東京】 古川 千夏 / 江藤 雄造 / 植野 のぞみ / 苔地 正樹 / 手塚 華
【GALLERY KOGURE | 東京】 瀧下 和之 / 伊藤 航 / LOTTA / isayamax / NAGMO / 中屋 明子 / 野村 俊介 / 佟 昊霖
【GALLERY KTO | 東京】 山口 真和 / 山田 瑞子 / 橋本 直明 / 近藤 南 / 山田 命佳
【Gallery LVS & Craft | 韓国】 Kim Dongjun
【ギャラリーMOS | 三重】 大西 佑一 / 佐野 圭亮 / 中嶋 草太 / 横田 千明 / 吉田 有希 / 並木 久矩
【GALLERY龍屋 | 愛知】 北奥 美帆
【H-art Beat Gallery | 東京】 王 麗楠 / 坪田 昌之 / 田中 悠 / 馬越 寿
【Imavision Gallery | 台湾】 吳又予 / 李馨羽 / 林貞君 / 林家綺 / 李善愷 / 許明香
【inart space | 台湾】 蘇小夢 / 水谷篤司 / 夏愛華 / 周珠旺 / 杉浦康益
【川田画廊 | 兵庫】 古家 達成 / 今村 能章 / 加藤 千佳
【みんなのギャラリー | 東京】 志村 観行 / Bitossi / Fat Lava / Kan-Zan-Loc
【水戸忠交易 | 東京】 青木 岳文 / 打田 翠 / 張 多然 / 御関 裕士
【MUMU GALLERY | 台湾】 李凱真 / 林義隆
【パッドギャラリー | 大阪】 稲葉 高志 / 北野 きよ / 美和 いちこ
【白白庵 | 東京】 津田 友子 / 角居 康宏 / 大下 邦弘 / 木ノ戸 久仁子 / 寺田 鉄平 / 富田 啓之 / シマカミ リッカ / 酒井 龍一 / 藤野 征一郎 / 白石 雪妃
【レントゲン藝術研究所準備室 | 東京】 坂田 あづみ / 森本 愛子 / 長谷川 ちかこ / 平井 武人
【RA art Gallery | 神奈川】 仲 剛司 / おの りゅうせい / 山田 勇魚 / 増田 麻由
【3ta2 SANTANI GALLERY | 愛媛】 梶浦 聖子 / 戸田 晶子 / 常信 明子 / 浅野 絵莉 / 村上 有輝 / 竹田 篤生 / 白晃 / 米津 真理奈 / 井下 紗希
【多治見市文化工房ギャラリーヴォイス | 岐阜】 天羽 羽衣 / 平岡 純平 / 奈良 祐希 / 原山 健一 / 佐藤 雅之 / 桑田 卓郎 / ナカヒラ アンディ
【TARO NASU | 東京】 ジョージェ・オズボルト / 田島 美加 / 中井 波花
【小山登美夫ギャラリー | 東京】 伊藤慶二 / 小出ナオキ / 岡崎裕子 / スナフジタ
【TOMOHIKO YOSHINO GALLERY | 東京】 水口 麟太郎 / スズキ シノブ / 淵上 直斗 / 井上 魁
【TRI-FOLD OSAKA | 大阪】 波多野 小桃 / 北 直人 / 北浦 和也 / 吉田 ショウヘイ
【和田画廊 | 東京】 鷺見 茜 / 名方 亜希 / DAIGO / 篠原 希 / 藤井 健司
【YOD Gallery | 大阪】 川瀬 理央 / 柴川 敏之 / 田中 雅文 / 古賀 真弥 / 廣瀬 絵美 / 村田 彩 / 刺繍する犬 / 岡安 真美 / 南 繁樹 / 西 崇
【悠遊舎ぎゃらりい SAPPORO | 北海道】 川北 友果 / 富田 美樹子 / 高橋 まき子 / 藤本 友 / 元木 庸子

ほか

■ 出展アーティスト

初出展の14ギャラリーを含む、国内外40ギャラリー（日本32、台湾7、韓国1）から、アーティスト209名が出品します。



蔣友柏
(ジャン・ヨウボ)
《リリース》
2022



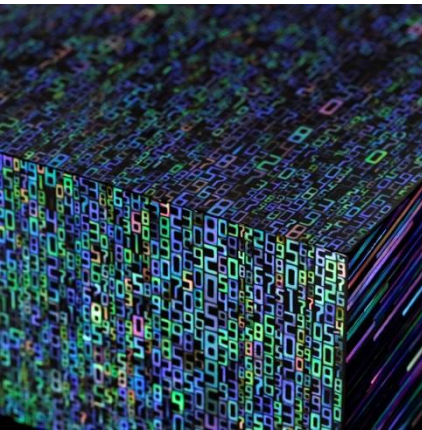
伊藤慶二
《おんな》
2019
Photo: Takahashi Kenji,
Courtesy of
Tomio Koyama Gallery



田島美加
《アニマ 31》
2022
Photo: Charles Benton,
courtesy of TARO NASU



Kim Dongjun
《Moon jar》
2023



池田 晃将
《百千流水香合》
2023
(参考作品)
Photo: Nakagawa Akifumi



酒井智也
《ReCollection series
あまたブ》
2023



奈良祐希
《Bone Flower》
2022
Photo: Hayashi Shugo



川瀬 理央
《刻 2022-4》
2022
(参考作品)

日程：2023年12月1日（金）～3日（日）

会場：ハイアット セントリック 金沢 2F

入場料: 無料（入場券または招待状が必要です）

予約: 予約優先

<https://onl.tw/J1Vu32m>

詳細・ご予約



1. 「国立工芸館とこれからの工芸 -12人の工芸・美術作家による新作制作プロジェクトから」

12月1日（金） 16:00-17:00 【アーティスト】新里明士、見附正康
【モデレーター】唐澤昌宏（国立工芸館長） 共催：国立工芸館



陶芸家 新里明士

1977年千葉県生まれ。早稲田大学第一文学部哲学科中退後、2001年多治見市陶磁器意匠研究所修了。主な受賞歴に2005年イタリア ファエンツァ国際陶芸展 新人賞、2008年バラミタ陶芸大賞展 大賞、国際陶磁器展美濃 審査員特別賞、2009年菊池ピエンナーレ 奨励賞、2014年MOA岡田茂吉賞 新人賞、2020年度日本陶磁協会賞。国内のほか、アメリカ、イタリア、ルーマニアなど海外でも多くの展覧会に出展し、高い評価を得る。



陶芸家 見附正康

1975年石川加賀市生まれ、1997年九谷焼技術研修所卒業、福島武山氏に師事。主な個展に、オオタファインアーツ(2007年、09年、16年、22年)。主な展覧会に、「工芸未来派」金沢21世紀美術館(2010年)、「ロジカル・エモーション-日本現代美術展-」スイス、ポーランド、ドイツ(2014～2015年巡回)、「japanese kougei/future forward」アメリカ・ミュージアムアート&デザイン(2015年)「無形にふれる」銀座ポーラミュージアムアネックス(2020年)、「和巧絶佳 令和時代の超工芸」パナソニック汐留美術館(2020～2022年巡回)、「No man's Land-陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先-」兵庫陶芸美術館(2021年)、「未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ展」パナソニック汐留美術館(2022～2023年巡回)、「コレクション展 1うつわ」金沢21世紀美術館(2022年)、「ジャンルレス工芸展」国立工芸館(2022年)、「ART de チャチャチャ 日本現代アートのDNAを探る 高橋龍太郎コレクション展」WHAT MUSEUM(2023年)。



国立工芸館館長 唐澤昌宏

1964年愛知県名古屋生まれ。愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。愛知県陶磁資料館（現、愛知県陶磁美術館）学芸員を経て、2003年に東京国立近代美術館主任研究員。2010年に工芸課長。2020年より現職。2018年第39回小山富士夫記念賞（褒賞）受賞。専門は近・現代工芸史。日本陶磁協会賞選考委員。主な企画・監修に、「青磁を極める-岡部嶺男展」、「現代工芸への視点-茶事をめぐって」、「日本伝統工芸展60回記念-工芸からKOGEIへ」、「青磁のいま-受け継がれた技と美 南来から現代まで」、「The 備前-土と炎から生まれる造形美-」、「近代工芸と茶の湯のうつわ-四季のしつらい-」、「『ひとがた』をめぐる造形」など。著書に『窯別ガイド日本のやきもの 瀬戸』（淡交社）。共著に『日本やきもの史』（美術出版社）、『やきものを知る12のステップ』（淡交社）など。

2. 「工芸のある生活 -コレクションの楽しみ方」

12月2日（土） 14:00-14:45 【ゲスト】山本冬彦（アートソムリエ）



アートソムリエ 山本冬彦

1948年石川県生まれ。東京大学卒業後、合繊会社・保険会社勤務などのサラリーマン生活を続けながら、趣味として毎週末銀座・京橋・日本橋界隈のギャラリー巡りをし、その時々若手作家を購入し続けるサラリーマンコレクター。放送大学・理事を最後に退官し現在は銀座に隠居。2009年には『週末はギャラリーめぐり』（ちくま新書）を出版。2010年には佐藤美術館で「山本冬彦コレクション展：サラリーマンコレクター30年の軌跡」を開催。隠居後も銀座の隠れ家を拠点に毎日のギャラリーめぐりとコレクションを続け、雑誌・新聞などの取材やビジネスパーソンへのアート普及のための講演や執筆活動なども行う。最近では若手作家の発表の場作りとして数々の企画展を実施。毎日のようにフェイスブックでアート情報の提供を行っている。

3. 「Under 30の新たな潮流 -Supported by 三菱UFJフィナンシャル・グループ」

12月2日（土）16:00-17:00

【アーティスト】田中里姫、外山和洋、藤田和
【モデレーター】秋元雄史（東京藝術大学名誉教授）

ガラス作家 田中里姫

1995年青森県生まれ。2017年に秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻卒業後、秋田市新屋ガラス工房で勤務。2021年に金沢市卯辰山工芸工房入所。2022年に金沢・国際ガラス展2022 大賞、金沢・世界工芸トリエンナーレ大賞を受賞。



金工作家 外山和洋

1994年東京都生まれ。武蔵野美術大学で金工を学び2017年に卒業した後、2022年まで同研究室助手を務める。2022年からは神奈川県を拠点に、国外のアートフェアやグループ展、コンペティションを中心に作品発表を行う。金属という、無機物の代表とされながら地球の元素でもある物質を一度完全に溶かし、本来形のない地球のエLEMENTや生命の美しさを表現した形に再構成することで、地球で行われている循環を表現している。近年の主な活動に、個展「Earth, Metal, Vessel」（2023年、銀座鳥屋書店、東京）、「TEFAF MAASTRICHT」（2023年、MECC Maastricht、オランダ）、「Adrian Sassoon at Parham」（2021年、Parham House、イギリス）などがある。



漆芸作家 藤田和

1994年大阪府生まれ。2018年に京都市立芸術大学美術学部工芸科卒業後、2019年に京都市産業技術研究所伝統産業技術後継者育成研修漆工応用コース修了。2022年に金沢卯辰山工芸工房漆芸工房を修了し、現在金沢市内にて制作中。2022年日本和文化グランプリ準グランプリ、2023年に国際漆展・石川2023金賞、Forbes JAPAN 30 under30 2023を受賞。



東京藝術大学名誉教授 秋元雄史

金沢21世紀美術館特任館長、国立台南芸術大学名誉教授、美術評論家。1955年東京生。東京藝術大学美術学部卒業。1991年から直島のアートプロジェクトに携わる。2004年～2006年地中美術館館長。2007年～2016年金沢21世紀美術館館長。2015年～2021年東京藝術大学美術学部長・教授。2017年～2023年練馬区立美術館館長。主なプロジェクト、展覧会は、「直島スタンダードⅠ、Ⅱ」（直島・香川）、「金沢・世界工芸トリエンナーレⅠ、Ⅱ、Ⅲ」（金沢、台湾）、「工芸未来派」（金沢、ニューヨーク）、「ジャポニズム2018『井上有一』展」（パリ、アルビ・フランス）、「あるがままのアート 人知れず表現し続ける者たち」展（東京・日本）等。2021年から「北陸工芸の祭典GO FOR KOGEI」をディレクション。著書には『アート思考』プレジデント社など。

4. 「これからのアートフェア」

12月3日（日）14:00-15:30

【ゲスト】川上智子（多治見市文化工房ギャラリーヴォイス エグゼクティブディレクター）
小山登美夫（小山登美夫ギャラリー代表）
【モデレーター】金島隆弘（金沢美術工芸大学芸術学専攻准教授）

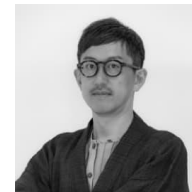
多治見市文化工房ギャラリーヴォイス エグゼクティブディレクター 川上智子

1957年岐阜県高山市生まれ。1978年多治見市陶磁器意匠研究所修了後、(有)美濃焼スクエア店長、岐阜県現代陶芸美術協会の委員、第9・10回国際陶磁器展美濃実行委員会運営委員副委員長コンペ作業部会委員、第11～13回国際陶磁器展美濃実行委員会運営委員等を歴任。2006年多治見市文化工房ギャラリーヴォイス立ち上げ、2013年より岐阜県郷土工芸品審査会委員。その他、1978年岐阜県総合デザイン展入選、1998年第5回国際陶磁器展美濃'98デザイン部門にて審査員特別賞・陶芸部門受賞、2005年第54回ファエンツァ国際現代陶芸展グランプリ、2007年岐阜県芸術文化奨励賞等を受賞。パブリックコレクションとして、外務省国際交流基金、岐阜県現代陶芸美術館、ファエンツァ国際陶磁美術館、岐阜県陶磁資料館等に作品収蔵。



小山登美夫ギャラリー代表 小山登美夫

1963年東京生まれ。1987年東京芸術大学芸術学卒業。1996年に江東区佐賀町に小山登美夫ギャラリーを開廊。菅木志雄や蜷川実花、杉戸洋、三宅信太郎や中園孔二、工藤麻紀子、リチャード・タトルやステファン・バルケンホル、トム・サックスなど国内外のアーティストを展示。オープン当初より、国外のアートフェアにも積極的に参加し、日本アーティストを紹介。一方、国内でのマーケットの充実と拡大を模索し、若手アーティストの発掘、育成にも力を注ぐ。2015年10月に六本木にギャラリーを移転。2007年よりアートアワードトーキョー丸の内審査員。現在、日本現代美術商協会代表理事。著書に「現代アートビジネス」（アスキー新書）、「この絵、いくら？」（講談社）、「何もしないプロデュース術」（東洋経済新報社）、「見た、訊いた、買った古美術」（新潮社）、「“お金”から見る現代アート」（講談社）。



金沢美術工芸大学芸術学専攻准教授 金島隆弘

1977年東京生まれ。東アジアの現代美術や工芸を含む文化的エコシステムにおける協働、プロデュース、キュレーションの実践的研究を行う。横浜、北京、台北、成都、京都など、東アジア地域でのアートプロジェクトや展覧会、交流事業、調査研究などを手がけた他、「アートフェア東京」エグゼクティブディレクター(11-15年)、「アート北京」アートディレクター(16-17年)、「アートのコラボレーションキョウト」プログラムディレクター(21年)を歴任。2002年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程、2023年京都市立芸術大学大学院美術研究科芸術学博士後期課程修了。修士(政策・メディア)・博士(美術)。(Photo by Choji Nakahodo)

会場：ハイアットセントリック 金沢 2F 入場料：無料 予約：予約優先

詳細・ご予約



「茶道再考—国立工芸館所有の茶道具を使用した3つのプレミアム茶会」

詳細・ご予約



金沢は、茶の湯や禅、能楽などの伝統文化が日常に根付いています。武家文化に由来する伝統を大切にしながらも、新しい文化やアートを創造していくまちです。今回は、近現代の工芸・デザインを専門とする唯一の国立美術館である国立工芸館が、これからの工芸界を担う12人の現役作家とともに制作した器や茶道具を用いた3つの茶会を開催します。

1. 伝統と現代の工芸に出会う 金沢の茶の湯の世界

日々研鑽に努め国内外で茶の湯を伝える奈良宗久氏が席主となり、「KOGEI Art Fair Kanazawa 2023」の会場でみなさまをお待ちしております。会場には国立工芸館所蔵でインテリアデザイナー内田繁が制作した小間も展示。金沢の茶の湯の世界へ誘います。

席主：奈良宗久(茶道家)

協力：好古会

会場：ハイアット セントリック 金沢

チケット：3,300円 (お1人様/茶会で提供する菓子、茶含む)

※KOGEI Art Fair Kanazawa 2023入場料は含みません)

開催日時：

12月2日(土)

12:00-12:45 (受付開始 11:40) | 13:00-13:45 (受付開始 12:30)

15:15-16:00 (受付開始 14:45) | 17:15-18:00 (受付開始 16:45)

12月3日(日)

12:00-12:45 (受付開始 11:30) | 13:00-13:45 (受付開始 12:30)

15:30-16:15 (受付開始 15:00) | 16:30-17:15 (受付開始 16:00)



2. 安藤忠雄の建築空間と西田哲学が融合する現代茶会

コンクリート打ち放しの静謐かつ重厚な安藤忠雄氏の建築「西田幾多郎記念哲学館」を特別に夜間開放し、国立工芸館所有の現代工芸家が制作したうつわを使用し執り行う茶会です。ホワイエには六角屋がプロデュースする移動式の四畳半茶室を設置。わずかな音や光から自らの感覚を刺激しつつ、世界に禅を広めた西田幾多郎の思想を体感する茶会をお楽しみください。

席主：三浦史朗(建築家)、中村卓夫(陶芸家)、浦淳(建築家)

協力：川崎宗晃、辻亮一、川崎社中、山本基

会場：西田幾多郎記念哲学館

チケット：16,500円 (お1人様/会場までのラグジュアリーバス移動費、西田幾多郎記念哲学館入館料、茶会で提供される菓子、茶、KOGEI Art Fair Kanazawa 2023入場チケットを含む)

開催日時：12月3日(日) 18:00-20:00



3. 金沢の老舗漆器店の主人が司るオーセンティック茶会

金沢漆器や蒔絵を扱う創業240年以上の老舗漆器店の主人が、金沢の伝統的な茶会をオーガナイズします。茶会の場所は金沢の有名な茶人であり茶道具コレクターであった造り酒屋の自宅を移築した旧中村邸。国立工芸館所有の現代工芸家が制作した茶道具と骨董的価値をもつ通常非公開の茶道具をとりあわせた茶会のあとは、点心(茶会で出される簡単な食事)と金沢の伝統芸能でリラックスして頂きます。

席主：岡能久

会場：旧中村邸 (金沢市本多町3-2-29)

チケット：33,000円 (お1人様/会場までのラグジュアリーバス移動費、中村記念美術館入館料、茶会で提供される茶菓・点心、KOGEI Art Fair Kanazawa 2023入場チケットを含む)

開催日時：12月1日(金) 12:00-15:00



■「Artist's Studio Visit」

詳細・ご予約



昔から工芸品の制作が盛んな金沢および近郊には、アーティストの工房が点在していることも特徴のひとつ。最前線で活躍する2名のアーティストの工房を訪ねて、作品の生まれてくる背景や、自身のアートや工芸に関する思いを直接うかがえる、特別プログラムを設けました。

1. 陶芸家 牟田陽日の超絶技巧の世界を訪ねる

手びねりで作った磁器に、まるで立体絵画、肉筆浮世絵のような手法で九谷焼を制作する牟田陽日氏の作品は、海外のコレクターからも絶大な支持を受けています。金沢市近郊の能美市に構えた新しい工房を訪ね、超絶技巧の色絵の制作風景や作品鑑賞とともに、自身の工芸やアートへの思いをお聞きます。

開催日時：12月2日(土) 14:00-16:00

会場：牟田陽日工房（石川県能美市）

定員：10名

チケット：22,000円（お1人様/会場までのラグジュアリーバス移動費、工房での茶菓提供、KOGEI Art Fair Kanazawa 2023入場チケットを含む）



牟田陽日

1981年東京都渋谷区生まれ。2008年ロンドン、ゴールドスミスカレッジ、ファインアート科卒業。2012年石川県立九谷焼技術研修所卒業。現在、石川県能美市にて工房兼住居を構える。陶磁器に彩色を施す色絵の技法を軸に、日常的な食器、茶器などの美術工芸品からアートワークまで多岐に渡り制作。現代の自然に対する意識の在りようをテーマに、動植物、神獣、古典図案等を再構成し色絵磁器に起こしている。日本の美感、工芸、アートの間を相互に交信するような作品制作を目標とする。

■KOGEI Art Fair Kanazawaについて 第7回目となる国内唯一の工芸に特化したアートフェア

「KOGEI Art Fair Kanazawa」は、2017年から石川県金沢市で実施されている、国内唯一の工芸に特化したアートフェアです。新進気鋭の若手作家の作品から世界で活躍する作家の作品まで、国内外のギャラリーが一堂に集結。「KOGEI」の魅力や、茶の湯や禅、能楽など、様々な伝統文化が日常に根付く金沢のまちなかより発信してきました。本アートフェアでは、より暮らしに近い空間の中で芸術性、創造性の高い作品をじっくり手に取っていただけるよう、ホテルの客室を使った展示方法を採用しています。



日時：12月1日(金) 13:00~19:00（最終入場18:30）ファーストビュー（招待者限定）
12月2日(土) 11:00~19:00（最終入場18:30）一般公開
12月3日(日) 11:00~18:00（最終入場17:30）一般公開

会場：ハイアット セントリック 金沢 2階、5階、6階（石川県金沢市広岡1丁目5-2）

入場：2,000円（2日間通し券）

販売：<https://artsticker.app/events/12971>

【主催】 KOGEI Art Fair Kanazawa 実行委員会

実行委員長：福光 松太郎（一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構 理事長）

副実行委員長：浦 淳（認定NPO法人趣都金澤理事長）、本山 陽子（金沢アートスペースリンク）

アドバイザー：秋元 雄史（東京藝術大学名誉教授）

【主管】 認定NPO法人趣都金澤

【共催】 一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構、金沢アートスペースリンク

【協力】 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI、一般社団法人 ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

【後援】 石川県、金沢市、金沢経済同友会、金沢商工会議所、金沢青年会議所、北國新聞社

※本リリース内「日本初」「国内唯一」に関しては当社調べによる記載です。